

日本では、鎌倉時代以降、武士の時代が到来すると、戦で命運をともにする馬と人の距離はさらに近くなり、馬の活躍の場面は飛躍的に増加した。鞍や鐙などの馬具も、具足や刀などの武具同様に、時代が下るにつれ美術的な面でも趣向を凝らしたものが多く見られるようになる。鞍橋くらぼねとよばれる木の骨格に、革・鉄・螺鈿らでん・金貝・木彫・蒔絵などの材料や技法で装飾された鞍や、セットとなった鐙には、一種の総合芸術といえるものも散見される。

今回の展示で出品されている「左三ッ巴紋花鳥円文蒔絵鞍・鐙」は、江戸時代に制作された鞍と鐙である。全体に金粉を密に蒔き付けた上に、家紋や霊獣、花鳥獣などの文様が金銀高蒔絵と金切金きりかねで仕立てられている。こうした蒔絵や切金などの加飾部分は19世紀のものだが、鞍橋にはさらに古い寛永21年（1644）の銘がある。鞍の骨格を成す鞍橋は、表面の加飾が傷んだ際に仕立て直して使われる例も多く、銘と加飾の時代が異なるものもしばしば見受けられるが、展示の鞍と鐙もこうした例の一つであろう。

展示室では、日本の鞍や鐙の造形とともに、金銀高蒔絵で描きだされる多種多様な文様と、切金を多用したその精細な表現を、ぜひ間近で見たい。

（学芸員 吉廣さやか）



左三ッ巴紋花鳥円文蒔絵鞍・鐙

平成 26 年度学習院大学史料館特別展 「馬 — その歴史と学習院 —」展

【主催】 学習院大学史料館

【共催】 学習院大学国際研究教育機構

【協力】 馬の博物館・霞会館・桜鞍会・学習院馬術部・
学習院大学図書館・学習院アーカイブズ

【会期・会場】

・平成 26 年 4 月 5 日（土）～ 6 月 7 日（土）

平日・土曜 10:00～17:00

日曜・祝日、5 月 15 日（木）閉室、

*4/13（日）「オール学習院の集い」特別開室

・北 2 号館 1 階 学習院大学史料館展示室

・入場無料

・ギャラリートーク

① 4 月 13 日（日）

② 5 月 24 日（土）

12:00～14:00～（各回 30 分）

*この展覧会は、
文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「近代アジアへの眼差しと教育—学習院コレクションの総合的活用」、文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「東アジアの歴史都市と自然環境—先端科学が拓く『古都・長安学』」の関連事業です。

第 73 回学習院大学史料館講座

5 月 10 日（土）14:00～16:00（予定）

「馬の博物誌」

馬の博物館副館長 末崎真澄氏

「学習院の馬術 135 年」

元学習院馬術部監督 岡部長忠氏

会場：学習院大学目白キャンパス西 5 号館 B1 教室

ミュージアム・レター 第 25 号

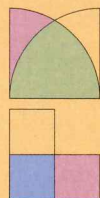
2014 年 4 月 5 日発行

〒171-8588 東京都豊島区目白 1-5-1

電話 03(3986)0221

内線 6569

FAX 03(5992)9219



Gakushuin University Museum of History
学習院大学史料館

● ホームページもご覧ください
<http://www.gakushuin.ac.jp/univ/ua>